

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1196000069		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	坂戸グループホームそよ風		
所在地	埼玉県坂戸市大字赤尾1893番地1		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosvCd=1196000069-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosvCd=1196000069-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9-103		
訪問調査日	平成26年9月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

在宅における利用者それぞれの生活に近いものを実現していただくことを前提に、これからの人生をいかに有意義に過ごしていただくかという点に最も注力している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

●法人の憲章のほか、ユニットごとに「フロア理念」を掲示し、利用者本位の支援の実践に努めている。管理者は「日常生活を楽しんでもらう支援」「利用者の意志を大事にした支援」ができるよう職員の指導・牽引・後援に取り組んでいる。  
 ●経験豊富な職員らの指導により、入浴や排せつの支援への対応がなされている。プライバシーへの配慮や声掛けの工夫など熟達したケア方法により利用者の支援に努めている。  
 ●リビング・廊下・浴室の着替え場所・トイレなど広いスペースが確保されており、エレベーターや左右どちらからでも支援できる浴槽の設置など重度化にも対応した造りとなっている。1Fにテラス・2Fにベランダがあり、双方とも外気浴が楽しめるスペースとなっている。  
 【場面観察】食器を洗ったり、洗濯物を畳んだりとできる方には役割をもってもらいながらお手伝いが行われている。利用者の気持ちに配慮しながら無理強いすることなく・楽しみながら行われていた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念(そよ風憲章)、ユニットごとの理念を事務所に掲示し、実践と共有に取り組んでいる。	「フロアー理念」と題されたそれぞれのユニットごとの目標は、職員がいつでも見られる場所に掲示されている。「利用者が共同で生活するためにどのように支援をしたらよいか」ということを理解させ・諭しながら指導に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の清掃活動に利用者が職員とともに参加している。また、地域の子供会行事にも参加し、近隣保育園の行事も見学参加をしている、	近隣に保育園があり、行事やバザーなどに誘ってもらうなど緊密な関係が構築されている。ボランティアによる催しも定期的なされている。	保育園よりお誘いを数々いただいております。こちらからも行事に招待するなど、より密なる関係が築かれていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から入居相談や職員としての採用相談があり、認識を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスのあり方につき、委員より、様々な提案を受け、それをサービス向上の参考としている。	地域包括支援センター、民生委員、家族の方々が参加し、開催がなされている。現状報告や利用者の安全対策などが話されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	坂戸市介護事業者連絡会グループホーム部会に参加し、事例報告、介護計画等現場の意見に加え市の担当者からの意見も参考にし、事業者相互に研鑽を積んでいる。	行政に対しては申請の提出や入居者情報の連絡などを通して関係の構築に努めている。また市のグループホーム部会での事例検討をはじめとする研修にも参加しており、関係機関との連携にも注力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会を開催し、職員の理解を深めている。また、利用者の外出意向を速やかに汲み取り、適宜、対応している。	利用者の安全と家族や関係者の意見に配慮しながら、ホームでの生活支援に努めている。また全体会議時等には虐待防止をはじめとする研修が適宜なされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会を開催し、職員の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての社内研修を基に、施設内で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(運営推進委員会)での、意見を、全体会議において、職員間で確認している。	担当者会議や面会時に家族とのコミュニケーションを図りながら意見の聴取に努めている。ホーム独自でも家族へのアンケートを実施するなど、要望の把握に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議のみならず、日々の申し送りの際にも意見、提案を検討、反映している。	月に一度行われるフロアー会議では利用者のケア方法等の話し合いがなされている。職員の思う理想の介護と現実のできる支援とのギャップを埋めるべく日々検討と模索に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課、評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター長会議、グループホーム意見交換会が定期的開催され、加えて社内研修、外部研修(定期開催)に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂戸市介護事業者連絡会グループホーム部会に参加し、事例報告、介護計画等現場の意見に加え市の担当者からの意見も参考にし、事業者相互に研鑽を積んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前の実態調査、身体状況 申出書を検証し、サービス提供に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の実態調査、身体状況 申出書を検証し、サービス提供に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設のサービスが、本人、家族にとって「その時」のより良いサービスであるか否か、十分、話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	文字通り、共同生活の介護であること、それぞれの人生経験を尊重し、生きがいを持った生活を支援することを基本としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への日常的な報告、連絡や、サービス担当者会議のなかで、課題を共有し、よりよい支援方法を検証している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外泊、外出の機会を随時、自由に持っていただき、馴染みの環境の中での生活であることを、実感していただいている。	家族や親類の面会など関係継続に対してもできる支援に努めている。ホームでの生活を通して今まで家族も知ることがなかった趣向などを聴取するなど、本人本位の生活ができるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に施設内で様々な役割を持っていただき、レクリエーションの提案、利用者同士の個々の触れ合いのなかで、それぞれが尊重し合える関係を築く努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了者には同一法人の他サービスを紹介し、経過状況をお聞きした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって、生きがいのある生活とは何か。本人の意向、家族の意向を尊重している。	家族からの聴取・日々の観察を通して利用者の意向の把握に努めている。また担当者会議の記録や健康状態は見やすいようファイルがなされており、職員間の情報共有がしやすいよう配慮がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査、身体状況申出書の検証にとどまることなく、居宅、包括、病院、自治体などから情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送り、連絡帳により、利用者の1日の状況を職員全員が把握できる体制としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンス、アセスメント、サービス担当者会議を適宜行うことにより、よりよい介護計画を作成している。	フロア会議時の個別カンファレンス・担当者会議・家族の要望の聴取を経てケアプランの策定がなされている。健康の維持と日常生活をいかに楽しんでもらえるかをテーマに作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果については、介護支援経過記録に記入し、情報を職員間で共有するために介護日誌に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、計画作成担当者、介護職が、硬直的な介護とならないよう、ユニット会議、全体会議等において、検証を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加し、地域住民としての充実感を持っていただくよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重した、かかりつけ医の受診を支援している。	協力病院による往診のほか、希望の医療機関への通院も支援がなされている。また毎月の便りには、受診の記録が記載されており、日常生活の様子とともに家族への報告がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録、往診記録により、看護師(介護職員)、介護職間で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診等を通し、医療関係者と情報交換を行い、入院時にも、早期退院となるよう関係をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りに関する指針に基づき、医療連携体制をしき、本人、家族に同意を得、終末期のケアを行う体制を整えている。	重度化と終末期のケアについては、入居時に説明と同意がなされている。医師の指示と家族の希望を聞きながらホームができる支援に取り組んでいる。エレベータ、左右から支援できる浴槽、広い廊下など設備面の対応も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、常時、職員が確認できる体制としている。また、救急救命講習を職員全員が受講し、不測の事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定防災訓練を行い、また、地域行事に参加し、地域住民に介護施設の認識を持っていただいている。	火災想定のもと避難訓練がなされている。災害・緊急時の各種対応マニュアルも装備されている。	定期的避難訓練の実施、備蓄の買い替えが予定されており、実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議において、介護従業者の接遇について、研修、討議を行っている。	「利用者の自尊心に配慮した接遇ができるよう」・「一人ひとりに合わせた声掛けができるよう」・「咄嗟のときでも配慮ある対応ができるよう」指導に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ等により、本人の思いをくみ取り、本人の意思を引き出すよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者最優先であること。職員の業務はあくまで利用者の生活の支援であることを確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、更衣の支援にとどまることなく、定期的に訪問理容の活用し、季節感をもった服装をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事の準備、片付け等を日常におこなっている。行事食、出前、外食等、変化することも、利用者に好まれている。菜園での収穫も、楽しみにしていただいている。	食事の準備や後片付けなどできる方は、積極的に楽しんで手伝いがなされている。ホーム内の畑でとれた野菜を利用したり、外食をしたりと工夫をこらし、食欲の喚起に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士作成の献立により栄養摂取の管理を行い、水分摂取量も日々管理している。また、医療機関と連携をとり、摂食不良時の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、自立での排泄を支援している。オムツ使用の利用者にも、時間誘導等を行い、自立排泄の支援を行っている。	利用者の羞恥心に配慮した声掛けとなるよう指導に努めている。排せつと水分補給の記録がなされており、誘導や健康状態の把握に利用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、繊維質食品の摂取や、軽運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が、自分の意志で入浴しているとの実感を持っていただくよう支援している。	定期的に入浴が実施されており、間隔があくことなく清潔の保持に努めている。拒否をする方に対しては、声掛けの仕方や対応職員の変更など思案がなされており、豊富な経験を活かして実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な睡眠を取っていただくことはもちろんだが、身体状況に応じ、随時、休息の必要性を検証している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理場所に、その目的を記載し、いつも確認できるようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持っていただいたり、楽しみごとを持っていただいたり、季節感を感じていただいたりしながら、日々生活をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	極力本人の意思に沿った形で、散歩を行っている。また、買い物、ドライブ、観覧、外食などを行っている。	気候と健康状態に配慮しながら日常的に散歩がなされている。大きなテラスを有しており、そこでの外気浴もなされている。季節の行事を取り入れた計画が立てられており、楽しみながら参加している利用者の姿が写真に収められている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じた金銭管理を行い、所持、使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にお使いいただいている。手紙についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた室内装飾や、行事ごとの写真を、利用者と共に掲示している。	利用者の制作物や手作りの飾りが数多く配置されており、温かな雰囲気となっている。大きなテラスやベランダ、広い廊下、浴室やリビングに配置された椅子やソファなど快適に過ごすことができるよう整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、入居後も本人が使い慣れたものを、お持ちいただいている。	各人の個室は、エアコン・収納スペース・カウンターが装備されたプライベートな空間となっている。タンスやテレビなども持ち込まれており、一覧として記録もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分の手すりを利用し、歩行訓練を行い、バルコニーより、自由に菜園に出ている。		

(別紙4(2))

事業所名 : 坂戸グループホームそよ風

## 目標達成計画

作成日 : 平成26年10月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流	地域の中のグループホームであることの認識向上。	防災、消防訓練実施の際、地域からの参加を呼び掛け、地域の中のグループホームとして、認識を深めてもらう。	12ヶ月
2	2	地域との交流	地域の中のグループホームであることの認識向上。	行事開催時には、地域住民に参加していただくよう働きかけをする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。